

保育士

【nursery school teacher】

子供たちの成長を すぐそばで見られる喜び

「子供と触れ合うことが何よりも楽しい」
この4月から保育士として働いている宮林さん。児童養護施設やプリスクールでの就業経験はあるが、保育園に勤めるのは初めてになる。「養護施設は子供と一緒に生活する場だったので、子供のことを毎日ずっと見て、心の変化を追って対応することができました。でも、ここではお迎えの時間が来たら、子供たちは自宅に帰ってしまう。泣きながら帰った子がいたりすると、『家に帰ってから大丈夫だったかな、明日また笑顔で来てくれるかな』って心配になることもあります」

「一方で、小さな子供たちと接することで生まれる喜びもある。」
「子供の成長が本当に早いんですよ。ここで仕事を始めてからまだ3カ月ですが、みんなびっくりするぐらい成長しています。引っこ込み思案だった子がみんなの輪の中に入って遊べるようになったり、トイレが苦手だった子が一人でできるようになったり。子供たちの成長をそばで見ると、実感できるのは、この仕事ならではの大きな喜びだと思います」

「一日の仕事は、朝、子供たちを迎え入れる準備から始まる。子供たちが来園したら、歌やダンスや工作をしたり、公園に遊びに行ったりすることも。お昼ご飯の時間も、のんびりはしていい。子供をイスに座らせておくだけでも、

「苦勞なのだ。夕方、子供たちが帰った後は園内の整備。ほかの園と合同でミーティングを行うこともある。」
「目まぐるしい毎日ですし、『大事なお子さんたちを預かっている』という責任も大きい。でも、子供と触れあっているのが何よりも楽しいんです」

「いろいろな子供たちと関係を築きたい」
「子供と一緒にいる時間を楽しみたいし、子供にもその気持ちを伝えたい。毎日、保育園に行くことを楽しみにしてもらえたら嬉しいですね」



Profile

宮林 綾さん 26歳

短大を卒業後、児童養護施設に就職。家庭の事情で両親と一緒に暮らせない子供たちとともに、施設で生活する。4年間勤務するが、体調を崩してしまい退職。療養中に英語を勉強する。回復後、身に付けた語学力を生かすため、外国人の未就学児童のためのプリスクールに就職。しかし事務職中心の仕事で子供と接することができなかったため、再び転職を考える。今年4月に、開園したばかりの「ケンパ国立」に保育士として就職する。



【Advice】志望者へのアドバイス

「子供が好きで、一緒に体を動かして遊ぶことを楽しめれば、どんな人でも保育士に向いていると思います。子供だけでなく、いろんな大人と接すること、人と関わることに興味を持ち続ける姿勢が大切だと思います」



迎えに来たお母さんに、連絡帳を渡して報告



子供たちが安全に遊べる様に、すぐに片付ける

勤務先 D A T A



ケンパ国立
アメリカの発達心理学者の著書をベースにした保育・教育カリキュラムを実践する、少人数制のチャイルドケアセンター。週1~2日利用、春休みや夏休みのスクールなど、多目的に利用できるプログラムを用意している。

〒東京都国立市中1-8-17 ロイヤルヒルズ国立1F ☎042-574-1356

企業 D A T A



NPO法人ケンパラーニング・コミュニティ協会
三鷹、調布、国立、横浜にある「Ken-Pa」を運営する特定非営利活動(NPO)法人。幼児及び児童とその家族に対して、家庭福祉・家庭教育に関する事業を行い、地域福祉の向上と子供の健全育成を目的としている。

〒東京都新宿区西新宿1-11-11-6F ☎03-5325-6363 http://www.kenpa.org